

今林議員 3月議会補足質疑 平成22年3月8日

私は、自由民主党福岡市議団を代表し、我が会派の代表質問の補足質疑として、

「国の政策変更に伴う、本市への影響等について」

「保育所と幼稚園について」

「効率的な組織体制について」

の3点を質問し、平成22年度予算から見える、本市の向かうべき道について、市長はどうお考えなのか。お尋ねしていきたいと思います。

まず、「国の政策変更に伴う、本市への影響等」について、質問をいたします。

地方都市では、地域の特性を生かして、市民が主役のまちづくりを行い、地域発展のために努力を重ねています。

地域・地域での特色づくりが、市の発展や市民のためになるものであれば、そのことに、まい進すべきであります。

多くの地方都市がある中、地域にあった特色を出すためには、先駆的な取り組みも必要であり、国・県との連携なども必要だと思います。

たとえば、国の事業仕分けで、「2番ではダメ」ですかで有名になった、「次世代スパコン」ですが、今、神戸市が誘致して、この分野で1番となっています。

なんで神戸市かと言うと、神戸市では、平成10年から明確に「医療産業都市構想」を打ち出し、「次世代スパコン」の先端技術を医療分野などにも生かすため、国と連携しているのです。

これでは、他の政令市は、1番にはなれません。

本市でも、桑原市長時代は、当時は誰も考えなかった「アジア戦略」を、明確にして、円滑な人や物の交流のため、「アジアの玄関口」として、港などの整備に力を入れてきました。

桑原市長は、福岡の発展のため、それまで「重要港湾」だった博多港を、国際海上輸送の拠点である「特定重要港湾」へ格上げし、

また、平成7年には「中枢国際港湾」の指定も受け、博多港を西日本随一のコンテナ港に向けた、基礎作りに取り組みられました。

本来、今、本市は、もう1ランク上の「スーパー中枢国際港湾」を軸にして、アジア戦略を考える時期なのです。

しかし、現在の市長になって、何の手立てもなく、逆に、博多港における国内便数および外国航路数も減り始めました。

平成21年速報値では、外国航路乗降人員は、前年比25%減の約64万人、貨物取扱量は、前年比13%減の66万teuと大幅に落ち込んでおります。

経済不況を理由にされますが、リーダーシップのない、何もない戦略では、本市の悲願である、平成27年に目指す100万teuは夢の夢であります。

また、市長は、就任時に、シティセールスとして、自ら先頭に立ち、セールスマンとなって、3年で100社を回ると豪語していました。

市長には思惑もあったのですが、しかし、期待していたアイランドシティの土地売却でも、現実には、何も実現しておりません。

本市は、先人のおかげで「世界でも住みやすい都市の上位にランクされる」までに成長し、これから、この財産を生かして、アジアに開かれたまち、福祉のまちとして、発展すべき時期なのです。

市長は、これから進むべき道の礎である「過去の財産」を食いつぶしているようにしか見えません。

今の市長は、明確なビジョンがなく、市民と何を約束し、市民をどこに導いて行こうとしているのでしょうか。

福岡丸の船長に対して、市民は不安を抱いています。

そこで、少し具体的な指摘をします。

市長公約の1つである「子育て日本一」についてです。

「子育て日本一」は、市民にとって、夢のあるものです。

実際、子育て中の、家庭にとっては嬉しいことですが、では、具体的には、何を実施しているのでしょうか。

例えば、「子どもの医療費の無料化」については、本来、半分もらえる県の補助が、未だに1/4しかもらえない、不公平なシステムを変えることができていません。

平等に県税を収めている市民にとって、こんな不幸なことはありません。これが現状です。

県から、当然貰える約6億円があれば、夢のある「子ども政策」が展開できます。

また、今回、提案されています、「小3までの入院医療費無料化」については、すでに、4政令市では小学校卒業まで、また、7政令市では義務教育終了の中学校卒業までとなっています。

つまり、併せて18政令市のうち半数以上の11の政令市で、既に、本市以上の取り組みがなされています。

来年度の目玉として、中途半端に小学校3年とする理由もよく分からず、また、実施しても、これで、「子育て日本一」とは、とても胸を張れないでしょう。

もっと大胆に実施することにしてはどうでしょうか。

また、今回、折角の機会であった「子ども病院」の移転に際しても、ハイリスク母体を排除してしまうなど、本当に、「子育て日本一」を考えているのか不思議でなりません。

日本一と言うからには、もっと大胆に、国の支援なども、受けてはどうでしょうか、

例えば「国立成育医療センターの医療研究施設」など、国の子ども医療関連施設を誘致して、子ども病院の医療の発展に努めて欲しいものです。

市長は、公約達成度9割と言っているそうですが、公約の目玉としての「小3までの医療費無料化」に胸をはっても、これが、他都市に劣る政策であったならば、他の公約も似たり寄ったりと思われます。

次に「国の政策変更に伴う、本市への影響等について」ですが、

国予算の公共事業18%削減に伴う、地方都市である本市への影響について、お尋ねします。

現在、国では、一方的なダム建設の見直しを進めていますが、本市関連のダム事業である大山ダムや五ヶ山ダムの見直しはあるのか。

また、ダム関連の予算はどうなっているのかお尋ねします。

次に、国の直轄道路や、補助金で行う道路にも、影響があると思います。本市の道路整備には、どの程度影響するのか。お答えください。

次に、生活保護における母子加算の復活について、お尋ねします。

母子加算は、今、本当に必要なのでしょうか。

そこで、お尋ねしますが、この加算については、自民党政権時に1度廃止されましたが、その時の、理由と、廃止に至った議論の経緯を、教えてください。

次に、民主党の言っている地方主権とは、どんな意味なのでしょうか。今回、地方に自由度のある交付金として、社会資本整備 総合交付金が、創設されたようです。

これは、国が地方主権と言いながら、単に交付金を再編しただけであり、少しは自由度が高くなったかもしれませんが、交付金の仕組み自体は全く変わらず、今までと同じです。

このようなやり方では、国の事業への関与、そして、地方をコントロールする仕組みを、継続することに変わりはありません。

私には、地域主権という意味が良く理解できませんが、地方に主権があるとすれば、地方で集めた税金を、地方の裁量で国へ配分してあげるぐらいの意味でなければならないと思います。

そこでお尋ねしますが、今まで、交付金としては、まちづくり交付金などがありましたが、このような継続している事業に対する国の関与は、今後どうなるのかお尋ねします。

次に、私たちの会派は、常日ごろから、市民目線に立ち、地域住民の声を聞いております。この市民の声を、市政に反映するため、

歴代市長に対して、予算・政策要望を行い、本市の向かうべき道を、共に進んでまいりました。

そこでお尋ねしますが、22年度に向けての、市民の声144項目の要求が、予算ベースで、どの程度反映する予定なのか。お尋ねします。

内訳として、継続した129項目と新規である15項目について、実現度は、どのように、なっているのか、お尋ねします。

継続した項目は、前年度との予算比較での増減、新規項目については、着手率などでお答えください。

次に、「保育所・幼稚園について」お尋ねします。

まず、保育所の待機児童問題についてですが、来年度より、新しい待機児童解消プランを実施する予定です。

このプランでは、平成22年度は750名、そして、平成26年度までに、未入所児童とされる2200人をすべて解消するとのことですが、

具体的にどのような方法で解消するのか、新設・増築、分園、保育ママ、「認可外の認可化へ」の支援など、対応別に解消人員をお示しください。

また、来年度に予定する「認可外保育施設の利用料補助」について、認可外保育施設に通われる保護者の、負担の軽減になるものとして、評価できるものですが、

しかし、このことは、国で、税の負担の公平性から、考え方等について議論されており、私も委員をしている本市の児童福祉審議会でも、国の動向を注視しながら、検討していくとの結論が出ております。

つまり、この補助のあり方については、国の社会保障審議会、少子化特別部会における、昨年3月の「これからの保育制度のあり方」で中間報告をされ、今後、さらに検討が進められることになっています。

国の検討結果を待たずに、本市だけが内容も分からず、先行して対応することについて、甚だ疑問を感じます。

保育所の安全・あんしんの基準については、国で統一した見解が必要だと思います。

そこでお尋ねしますが、本市児童福祉審議会の答申では、国の動向を注視しながら、検討していくとの意見がありますが、それを見切り発車する理由をお答えください。

また、本市の幼稚園について、幼稚園を利用する方の状況を教えてください。

最後に、「効率的な組織体制について」ですが、

本市では、すでに職員の大量退職が始まっており、平成21年度から平成30年度までの今後10年間で、約3,500人の定年退職が見込まれているようであります。

本市の職員数は、およそ1万人くらいでありますので、このうち、定年退職だけでも、実に約35%の職員が、今後10年間でいなくなるわけであります。

わずか10年の間に、35%もの職員が入れ替わる、この期間は、人事や組織としては大きな変革期であり、市民サービスの低下が懸念される一方、考え方によっては、今後の行政運営の仕組みづくりを変える絶好の機会です。

そこで、お尋ねしますが、平成22年度は、平成21年度と比較して、職員体制はどうなったのか、お尋ねします。

また、その結果として、「行政の集中改革プラン」での、職員数の変化の状況をお尋ねして

第1問を終わります。

〈二問目〉

「国の政策変更に伴う、本市への影響等について」お尋ねします

まず、国の公共工事の削減による影響で、特にダム事業について、今、凍結するかどうか、検証が要請されている、本市関連の五ヶ山ダム事業が、仮に中止となった場合、どう市民の生活へ、影響するのか、お尋ねします。

次に、生活保護の母子加算の復活についてですが、

今、深刻な経済状況から、仕事がないなど、雇用問題がクローズアップされています。最低賃金での生活を余儀なくされている方もいらっしゃいます。

ちなみに、本市でも、最低賃金を時給 680 円として、フルタイムで働く場合は、1 月で約 11 万円の計算となり、大変厳しい状況です。

そこでお尋ねしますが、一般の母子世帯における可処分所得と生活保護基準を比べた場合にはどうなるのか。

その他に健康保険や年金、また医療費の支払い等も考慮して、比較してお答えください。

次に、我が会派の予算・政策要望について、答弁では、89%、144 項目のうち 128 項目で予算反映されているとのことでした。

しかし、市長の詐欺的な公約である「子育て日本一」に象徴されるように、一見、実施しているように見えますが、私たち自民党や市民の皆様方にも実感がなく、表面的な印象を受けます。

我が会派の要望は、真に地域住民の声であり、個々の内容に対して、真摯に対応していただくよう強く要望しておきます。

次に、「保育所・幼稚園について」お尋ねします。

まず、待機児童解消プランについて、プランの実施に際しては、今後の少子化の進行を睨みながらの対策も必要です。

単なる新しい保育所の整備だけでなく、既存の施設の活用の他、多様な保育として、幼保一体、異世代交流や地域との連携、病児保育など保育園と幼稚園を一体となって考えて行く必要もあると思います。

そこでお尋ねしますが、平成23年度以降は、地域での状況等を勘案しながら行うとのことですが、

学校の余裕教室や、賃貸による分園整備を行うなど、既存施設の活用を積極的に進めるべきだと思いますが、ご所見をお伺いします。

次に、認可外保育所の利用者に対する補助についてですが、

児童福祉審議会で「早急」に行えとの、ご意見があったからとの答弁がありました。

しかし、一般的には、国の結論が出てから、「早急」に取り組むのが常識であり、結論も出ない前から、実施することは、無駄となる可能性もあり、限られた予算を、効率的・効果的に執行する上では、疑問を感じるものです。

早急な待機児童の解消に、まず、最初にやるべきことは、直接的な対応として、あんしんで安全な認可保育園の入園者を増やすために、予算を回すことだと指摘しておきます。

その他に「利用料補助の問題点」として、補助の目的が、保護者間の公平性、税を納めているのに公平なサービスを受けられないと言う視点に立てば、子育てしている方、全てに補助しなければならないという点です。

家庭や地域で保育されている方や事業所内保育施設に保育されている方に対してどうするかです。

また、保護者に対する補助とは言え、認可外施設への支援は、市が認可外への保育を容認することに繋がり、基準が満たない「認可外施設を認可施設」にするための支援と、矛盾することを指摘しておきます。

次に、幼稚園の定員については、市立が67%で、民間でも83%と、いずれも定員割れしている状況とのことです。

そこでお尋ねしますが、特に、「市立幼稚園」で定員割れが激しいようですが、定員割れの原因を教えてください。

つぎに、「効率的な組織体制」については、

不要・不急の業務の見直しで、約100名を減員したとのことです。スクラップアンドビルドを行う場合は、市民の立場で考え、我が会派が、主張するように、市民と、直接、接する現場の強化などに職員を配置すべきです。

また、病院の独立行政法人化により、さらに400名以上の職員の減員を達成したとのことです。

私は、このように、大量の職員の入れ替え時期を迎えるにあたり、市民サービスの低下を招かずに、独法化など大胆な仕組みにより、今後とも、本市の行政運営の転換を考えて行くべきだと思います。

そこでお尋ねしますが、コストを削減して、効率的な行政運営を進める中で、市民サービスの向上を図るために、具体的にどのような方策を講じていくのかをお尋ねして、2問目の質問を終わります。

<三問目>

「国の政策変更に伴う、本市への影響等について」ですが、

国の公共工事削減の影響については、景気の2番底の心配や、経済不況の続く中、福岡県は、予算を15.8%増して、独自で公共事業を行うと言明しております。

そこでお尋ねしますが、本市も独自で行う気概が必要と思いますが、ご所見をお伺いします。

特に、県との関係では、五ヶ山ダム事業やその他の公共工事について、国が中止を要請した場合などでも、県と一緒に、本市も独自の予算で対応するよう強く要望します。

次に、生活保護における母子加算の復活についてですが、

標準的な生活保護の母子世帯の1月の扶助費は約24万円、それに加え、健康保険料も年金も納める必要もなく、病院の医療費も「ただ」です。

一方、一般の母子世帯における可処分所得は約18万円です。

さらに最低賃金で働く方の給与は約11万円です。

世間一般の標準世帯で見ても、「生活保護費」と「生活は苦しいけど、がんばっている方」の生活費が逆転しているように思えます。

また、1人暮らしの高齢者についても、国民年金が満額で月額6万6千円に対して、生活保護費は11万2千円です。ここでも大変な矛盾を感じます。

40年間まじめに働いた結果の月額6万6千円では、老後の生活は大変厳しいと思います。これでは、将来への不安からか、若者の国民年金への滞納も増える一方です。

この矛盾は、今後とも深刻となるデフレ社会における、様々な逆転現象の1つかも知れません。

私は、市民の多くが、将来に不安を抱く現状と、日本の将来を見すえた時、憲法の定める生活保障として、賃金や年金を上げるか、生活保護費を見直すか、今の経済状況、そして、将来の時代変化を見越して、対応する必要があると思っています。

1番いいのは、年金や最低賃金を一律に上げることです。
これは誰からも喜ばれると思います。

しかし、これでは、日本は破綻してしまうでしょう。

仮に、国民年金や賃金を少し上げ、そして、生活保護費をそのベースに合わせると、

本市でも、一般会計の1割に迫る、約600億を超える生活保護予算のうち、何百億円もの予算が、子どもや福祉施策に、回すことができます。

せめて、私は、母子加算の復活に伴う予算4億7千万円分を、本市の独自の予算として、今、経済不況で生活は苦しいが、何とか一生懸命にがんばっている「市民の方々の救済」や、他の「母子福祉施策」に当てるべきだと思います。

国等に対して、母子加算の廃止を強く要望されるよう、お願いいたします。

つぎに、「保育所・幼稚園について」ですが

「保育所では待機児童」が発生し、「市立幼稚園は定員割れ」を起こしていることについては、なにか時代を反映した社会状況があるのかもしれませんが。

市立幼稚園の定員割れの原因に、対する今の答弁は、市立に限ったことでなく、幼稚園全体の話であり、市立幼稚園には、立地条件などもあると思うのですが、もう少し原因分析をして欲しいものです。

今、求められているのは、幼児を持つ保護者としては、利用する側のニーズにあった施設が必要であり、
そのためには、保育園や幼稚園も変わらなければなりません。

いずれにしても、市立幼稚園をはじめ、幼稚園の定員割れは、保育時間が短いこと、バス送迎がないことであり、これは、利用する側のニーズとの乖離であり、この問題の本質的な部分であるように思えます

市立幼稚園のあり方については、今後、議論を深めて行きたいと思いません。

そこでお尋ねしますが、
今回は、今後の、「保育所の待機児童対策」と「市立幼稚園のあり方」にとどめ、ご所見をお伺いします。

最後に、「効率的な組織体制について」ですが、

今後 10 年間で大量の職員が入れ替わり、これにより中・長期的には、行政の組織や、職員構成が大きく変わると、予想されます。

社会経済情勢の混迷が続く中で、今後とも、本市が、市民の信頼と期待に応え、市民から喜ばれるサービスを提供し続けるためには、行政運営のあり方が問われています。

この機会に、行政が直営で担うべきもの、民間ですべきもの、行政と民間が共同・連携して行うべきものをしっかりと分類し、「民間にできることは民間で」というスタンスで取り組むべきです。

行政に民間活用を導入するため、独法化、民間委託、P F I、指定管理者制度などを積極的に導入していくべきと考えます。

本市でも、平成 22 年度の組織編成で、集中改革プランにおける、職員削減目標を達成したとのことですが、自己満足に陥らず、もっと大胆に、行政組織の仕組みを変えるぐらいのスタンスで、望んで欲しいものです。

そこで、私の最後の質問として、お尋ねします。

本市の行政運営の基本である「福岡という地域の特色を生かしながら、そして、市民サービスの向上を図りながら、簡素で効率的な市役所」を、行うために、

今後、本市が向かうべき、道しるべについて、市長のご所見をお伺いし
て、

私の質問を終わります。